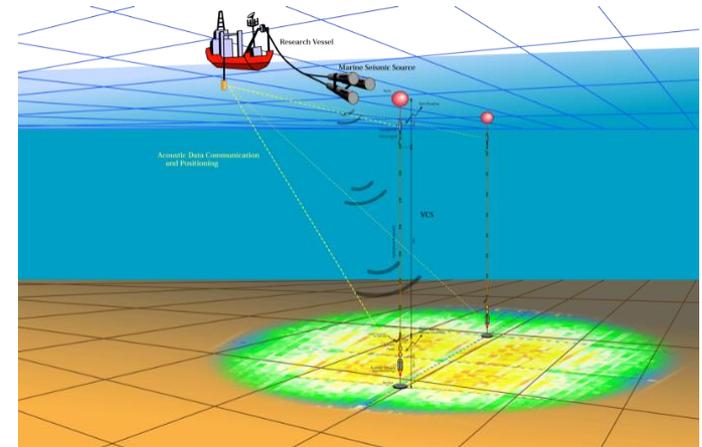
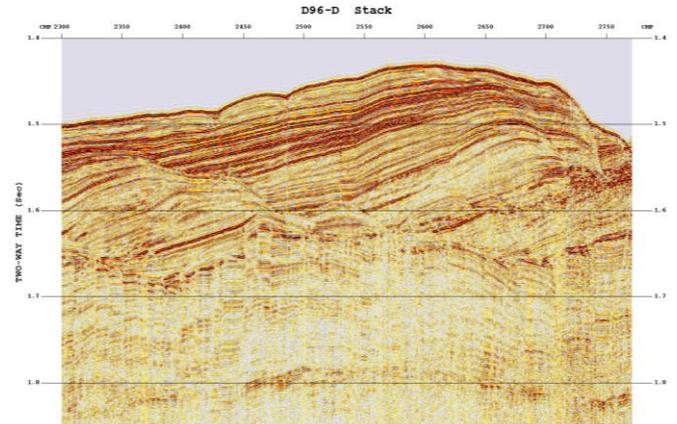


海洋情報フォーラム パネルディスカッション 「海外市場への展開可能性」



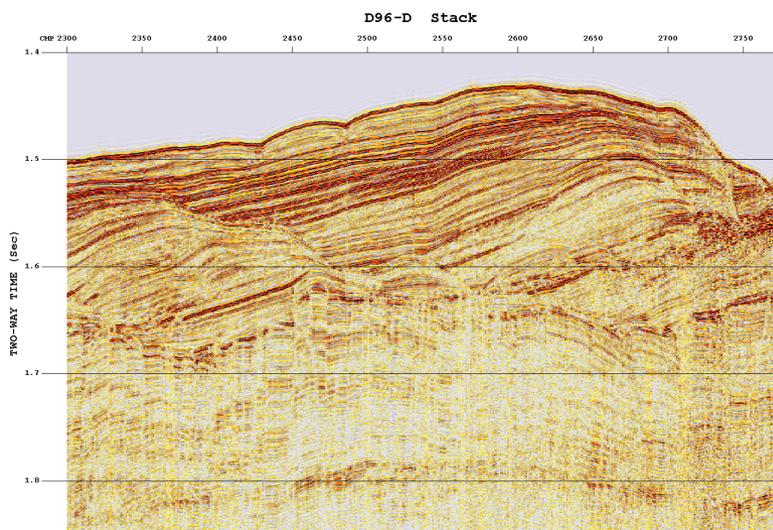
平成26年3月27日

(株) 地球科学総合研究所 河合展夫

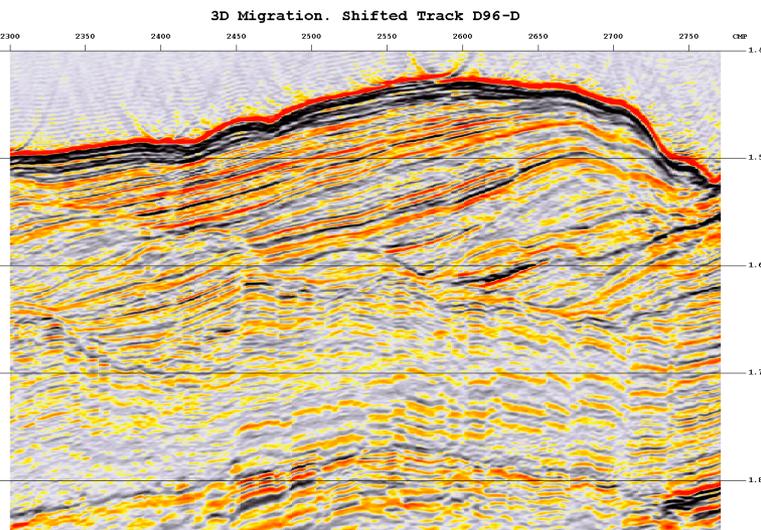
海外市場への展開の可能性 1

- ・ 海外において熱水鉱床探査に適用している探査技術は音響調査および電磁探査が中心であり、探査成果を示した音波探査技術を有する民間企業は存在しない。
- ・ また在来型石油天然ガス探査において進められている、データ統合型解釈・評価を可能とする技術サービス提供可能な民間企業も存在しない。
- ・ S I P 「海洋資源調査システム・運用手法の開発」により、上記の技術を有する民間企業が創設できれば、熱水鉱床探査の海外市場への展開は可能。

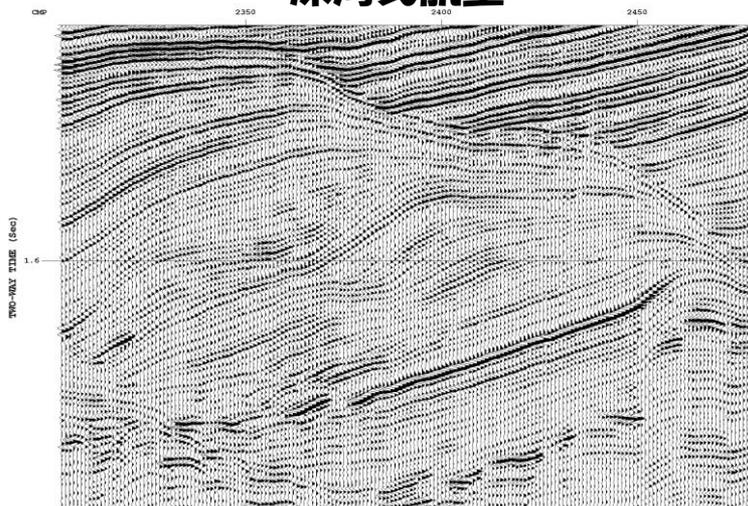
深海底探查（音波探查）例



深海曳航型



海上曳航型 (3D)



Asakawa et. al (2012)

海外市場への展開可能性2

- ・ **熱水鉱床探査以外にも、SIP課題により確立された探査システム・手法を、メタイハイドレートなど深海域における他の資源探査事業への拡大適用の可能性が十分存在する。**
- ・ **現在、世界的に最も大きな資金が投入されている資源開発事業は、大水深における在来型石油天然ガス開発である。その発見があった後に、巨額投資となる開発事業への移行の可否判断が必要となるが、事業リスク回避のために様々な検討が必要となる。その検討に熱水鉱床探査で確立された深海域における浅層探査技術は、操業リスク判断のためのジオハザード調査などへの応用が容易に可能である。**